

日本とちょっと違うよ - 通訳者よもやま話 - Vol.5 ベトナム語担当 トアさん

日本とベトナムは共通することが多いと感じますが、日本で生活していく中で、「ベトナムと特に違うな～」と思った点を3つご紹介します。

まずは「交通」についてです。日本に初めて来た時、一番驚いたのは交通の便利さでした。日本は公共交通機関が充実していることで、渋滞が少なく、移動がとても楽です。一方ベトナムでは、一般的な移動手段はバイクですが、交通渋滞がひどくて通学や通勤は結構辛いです。また、ベトナムの道路はかなり騒々しく、バイクのクラクションを派手に鳴らすのは常識で、日本では考えられないにぎやかさです。

次は「医療」についてです。自分や家族が病気やケガをした時、とても不安でしたが、日本の医療システムはフリーアクセスで保険証があれば自由に受診先を選ぶことができ、必要な医療サービスを受けられるので安心です。一方ベトナムでは、紹介システムによって決められた医療機関を最初に受診せずに上位レベルの病院に行ってしまうと、保険が適用されません。また、ベトナムの薬局では、日本では医師が処方しないと買えない抗生物質等が手軽に購入できるため、頭痛や腹痛など体調が悪い時、病院よりもまず薬局に行く人が少なくありません。

最後は「妊娠・出産」についてです。日本では、定期的な妊婦健診を出産まで受けますが、ベトナムでは、妊娠初期だけしっかりと健診を受け、問題が起こらない限りその後は受診しない妊婦さんが多いです。また、赤ちゃんと2人分だからと、カロリーが高い食べ物を沢山食べたり、妊婦用ミルクをよく飲んだりすることが普通です。日本だったら主治医や助産師に体重管理を厳しく注意されるでしょうね。



通訳者からのおススメ ～Vol.1～



通訳の際に、意外と訳出に戸惑うのは簡単な動作の表現です。「膝を立てて寝転んでください」「体をエビのように丸めておへそを見てください」など。特にオンラインでは、「こんな風に」と見本を見せることができないので、お伝えにくく止まってしまうことがあります。そんな時のために、通訳者たちが参考になっている「ラジオ体操」のサイトがあります。さまざまな言語のバージョンがあって、基本的な動作がシンプルに表現されています。「腕を斜め上にー！」それぞれの言語でヒアリングしながら、ついでに体も動かして、まさに一石二鳥ですね。

ひとつこぼれ話を

このNHKの番組で、ストールのような布を使ったマッサージを妊婦さんに行っている場面がありました。中南米でよく使われているRebozo(レボゾ)というもので、妊娠中の痛みを軽減するリラクゼーションの一つだそうです。とっても気持ちよさそうで、腰痛持ちの私はうらやましかったです(^ ^)

今月のトピックス

「ドゥーラをご存知ですか？」

それはある日の英語通訳の場面でした。ビデオの画面越しに患者さんがおっしゃった「ドゥーラ」。たまたまその英語通訳者は以前に医療者のブログで読んでいたため知識があり、アメリカなどでポピュラーな「お産を助ける女性」のことでと分かったのですが、さて皆さんは「ドゥーラ」をご存知ですか？

折しもNHKの番組で、日本で活動するブラジル人のドゥーラが紹介されました。「ただでさえ不安なお産なのに、言葉の通じない外国ではなおさら…」といった感想は誰もが口にするところでしょう。私たちの通訳場面でも、中国やベトナムの妊婦さんが、コロナ前は母国に帰って出産、または母国からお母さんに来てもらってサポートというのが当たり前だったのにそれもままならないという訴えがよくありました。

ドゥーラは出産の知識と経験を持ち、妊娠中から妊婦さんを支えます。番組の中でも、妊婦さんの希望や不安に対してとにかく耳を傾け、時にアドバイスを行っていました。そして、いざ出産という時には助産師(その時は助産院での出産でした)とタッグを組んで無事に赤ちゃんの誕生を見守りました。出産を終えたお母さんが「私、できたのよね！」とドゥーラと抱き合っておられたのが印象的でした。

日本でも周産期のうつが問題になっています。「ドゥーラ」の行う心理的サポートは、私たち医療通訳者も大きく共感できる部分であり、同じように医療者の方々とチームとなり患者さんを助けていくことができたら良いな、と強く感じました。

